

海外に子ども用車椅子を送る会

トピックス

- 読売新聞に当会の活動内容が紹介される(2005年5月16日)
- 朝日新聞に当会の活動内容が紹介される(2005年6月11日)
- NPO 法人設立申請手続き、申請書類を東京都庁に提出(2005年6月)
- ハートのロゴマーク決定(2005年5月)
- 当会を紹介するパンフレット(両面印刷3つ折)完成(2005年5月)

マレーシア脊髄損傷者協会へ61台贈呈

マレーシアの東方政策留学生同窓会からの要請と仲立ちにより、マレーシアの脊髄損傷者協会へ車椅子の贈呈を決定、6月9日に61台を同協会向けに発送しました。

マハティール首相の東方政策に基づいて多くの人々が日本に留学、研修を受けていますが、その留学した人々の同窓会である東方政策留学生

同窓会は、お世話になった自国への恩返しの一環として、現在不足し必要度の高い子ども用の車椅子を贈りたいと考えスパスティック養護センターに贈呈実績のある当会に送ってほしいと要請、当会はその要請を受けて車椅子を集め発送しました。

(7月19日に現地で贈呈式が行われますが、その模様は次号でお知らせします)



梱包作業
(メンバー&ボーイスカウト)



コンテナ積み
(多摩包装工業株式会社)

スパスティック養護センター(マレーシア)へ20台贈呈

2005年3月マレーシアの首都クアラルンプール近郊にあるスパスティック養護センターに車椅子20台を贈呈しました。

当贈呈にあたっては、発団30周年記念事業としてマレーシアの東アジア最高峰のキナバル山(標高4095m)

登山を計画していたボーイスカウトあきらの第1団(山崎常雄団委員長)に贈呈式出席を依頼、同団では団委員長以下14名がギルバル山登頂後スパスティック養護センターを訪れ、車椅子の贈呈と子ども達との交流を行いました。



スパスティック養護センターでの車椅子贈呈式

ご寄付をいただいた皆様(順不同)

- | | |
|---------|--------|
| 比留間 清風様 | 清宮 祥子様 |
| 芦田 稔様 | 小泉 政敬様 |
| 岩佐 メイコ様 | 山口様 |
| 林 理恵子様 | 雨宮 洋子様 |
| 岸野 絹代様 | 山田 勲様 |
| 稲葉様 | 匿名1名様 |

ご協力いただきありがとうございました(平成17年1月30日~6月19日分)

- | | | |
|------------------|---------|---------|
| 中神小学校様 | 馬場 久萬男様 | 芦屋 民江様 |
| 大日方 真様 | 石井 一輔様 | VV会一同様 |
| 芹川 千鶴様 | 平田 秀子様 | 田中 三重子様 |
| 角谷 サチ子様 | 渡辺 春代様 | 松戸 磨須美様 |
| 榎本 みつ枝様 | 秋草 直哉様 | 大島 たか子様 |
| マレーシア東方政策留学生同窓会様 | | |

ご協力いただいた企業(順不同)

- 株式会社交運社 日本通運株式会社 多摩包装工業株式会社 石川酒造株式会社 マレーシア国際船舶会社日本法人



NPO法人(特定非営利活動法人)設立申請



当会はずぎの内容の趣旨書を作成、当会をNPO法人(特定非営利活動法人)にするための申請を行いました。

わが国では、多くの身障者(肢体不自由者)が健常者と共存共栄し、幼児から障害を持っている子どもは、自分専用の車椅子を保有しています。専門メーカーも存在しますし、理学療法士・作業療法士や医師のアドバイスも受けられ、かつ国からの補助金があり、その子その子に適した車椅子をオーダーすることができます。

子どもは障害を持っていても成長は早く車椅子はすぐに体に合わなくなってしまいます。成長もするし、容態も異なってきますので、10~30万円もする高価な車椅子を2~3年で買い換えることとなります。

子ども用車椅子の場合、リサイクル中古品には補助金はありませんので、補助金を申請して買い換えたほうが保護者には負担が少ないという現実があり2~3年しか使っていない非常に状態の良いものが廃棄処分されています。

一方海外の発展途上国では障害のある子ども達の多くが家に置き去りにされている現実があります。養護学校に入れる子どもは幸いで、学校では大人用の車椅子が使えますが、家に帰れば車椅子などはありません。

特に子ども用の車椅子などは皆無ですので、両親が働きに出てしまい、車椅子もないとなれば一日中ベッドのなかで過ごし、日光浴もできない子どもが多いという現実があります。

わが国で廃棄されている車椅子は非常に状態が良く、給油、小修理をすれば新品同様に使用できるものがほとんどです。

当会の会長森田祐和は自身、先天性障害を持った子どもがあり、その生活体験から、この廃棄されている子ども用の車椅子を有効活用して、車椅子を必要としている海外の子ども達に利用してもらい、車椅子での移動の自由を得ることにより自分の幸福を自分自身で追及できるようにしてあげられないかと考え賛同者を募ったところ多くの協力者が得られ、平成16年6月に当会を発足させました。

当会を発足させてから、わずか3カ月の平成16年10月にマレーシアのスパスティック養護センターに16台、平成17年4月にマレーシアの同じ養護センターに20台、平成17年6月には所属の子ども達だけで1200名が車椅子を必要としているマレーシアの脊髄損傷者協会に61台を送りました。

当会の特質は、車椅子の廃棄処分に困っている都区内の養護施設や保護者の強い支持を得ていることと、車椅子の専門メーカーが収集した車椅子の修理を無償で引き受けてくれることです。

そして保護者が廃棄費用を支払って処分しているものを提供してもらい、グローバルな視点で資源のリサイクルと有効活用にご貢献できる意義は大きいものです。

当会の活動が知られるにつれ、提供される車椅子が増えてきているだけでなく、韓国、ペルーなどマレーシア以外の国の養護施設からも申し入れがあり、今後の需要の拡大が予測される状況になってきたことから、より多くの人々や団体の協力を得て活動を普遍化するためにNPO法に基づく法人格を取得することにより車椅子の収集や整備の費用、および海上輸送などの費用を確保し海外からの要望に

応えられようにすることにしました。

平成17年4月5日午前10時より、発起人会を開き、設立の趣旨、定款、平成17年度及び平成18年度の事業計画、収支予算、設立当初の役員などの案を審議しました。

発起人会の決定に基づいて平成17年5月29日午後1時より、設立総会を開き、発起人より、設立の趣旨、定款、平成17年度及び平成18年度の事業計画、収支予算、設立当初の役員などを提案し、審議の上決定、特定非営利活動法人海外に子ども用車椅子を送る会を設立することにしました。

私たちはNPO法人設立後も、わが国の障害を持つ子ども達が成長により使えなくなった車椅子を整備して福祉から見捨てられ動く自由を奪われている海外の子ども達に提供することにより、障害を持つ子ども達が健やかに成長できる社会づくり貢献するとともに、国際親善に寄与していきます。

松下電器産業ボランティア活動支援について

松下電器はグループの従業員やその家族、また定年退職者がよりよい社会づくりのために参画しているボランティア活動や市民運動について、資金の一部を支援し、その活動を通じて社会に貢献することを目指しています。

私どもの会の立ち上げに資金の確保が不可欠でありましたが、実績もなく組織も整っていませんでしたので募金活動にも苦慮しておりました。幸い当会の片野顧問が松下出身で昨年末このプログラムに応募され年間25万円まで最高5年間支援を受けられることになり、会にとって大きな支えとなっています。

平成17年度例会日程

7月17日(日) 8月21日(日) 9月18日(日)
10月16日(日) 11月20日(日) 12月18日(日)

◆時間: 10 a m ~ 3 p m (雨天でも実行)

昼食は用意します。

◆場所: 交運社・熊川工場にて

(福生市熊川979 JR熊川駅下車、駐車場有ります)

◆車椅子の整備を行いますので、会員は万障繰り合わせでの参加をお願いします。

◆見学や新規参加も大歓迎いたします。

発行責任者

会長 森田 祐和

〒197-0012 東京都福生市加美平3-7-13

Tel 042-553-2342

E-mail info@kotobukiya.com

ホームページ

<http://www.oyaji.ma.cx/kotobukiya-index.html>